



今度の休みは、誰かのために

イモ子レポート 初めてのボランティア

イラスト/西田協子 取材・文/小山暢子

BAILA the View

vol.21

自然からも 子どもたちからも 学べる里山体験

イモ子が今回参加したのは、東京里山開拓団のボランティア。開拓団では、地主さんの協力を得て、荒れた里山を自分たちの力で開拓し、その里山に子どもたちを招き、みんなで自然の恵みを知り、自然とのつながりを学ぼうと活動を行っている。

活動場所は、東京・高尾にある里山。周りには山々が連なり、都内にもまだまだ自然が残っていることをあらためて知りました。山頂付近の広場で児童養護施設の子どもたちと交流。子どもたちは子ども支援団体との連携で参加しているのか。都会の生活では、子どもたちも自然とふれあう機会が少ないもの。養護施設などの子どもたちにも、自然を感じ、自然から学んでもらいたいと昨年か

ら連携を始めたそう。

到着するとすぐに、広場にあるボランティア手作りの木の遊具で遊び始める子どもたち。都会ではなかなか目にすることのない木の遊具は、子どもたちにとっても新鮮みたい。そして、ランチはボランティアが事前に用意した食材を使ったBBQ! ランチのあとも、子どもたちは元気いっぱい! それをサポートするボランティアのほうが思わず息切れする場面も。でも、子どもたちならではの視点で遊びを考え出したり、昆虫を見つけたら、イモ子たち大人が子どもたちから学ぶことも多く、その素直な考え方や行動に刺激を受けました。

今後は活動場所を増やして、より多くの子どもたちを招くのが開拓団の目標。たくさんの子もたちがこの里山体験に参加できるといいなと思うイモ子でした。

今月体験したボランティア 里山ボランティア

始める前にインタビュー 里山ボランティアって何?



教えてくれたのは 東京里山開拓団 代表 堀崎 茂さん

手つかずになったままの里山を開拓。その里山で、子どもたちが自然や人とのつながりを感じられるような活動を行っている。

Q なんで始めたの?

A「最初は個人的に里山を開拓していましたが、その後、里山で自然のたくましさや、自然や人とのつながりを学んでもらおうと、2009年に東京里山開拓団をスタート。昨年からは児童養護施設の子どもたちも参加できるようになりました」

Q ボランティアは何をするの?

A「基本は当日の子どもたちのサポートや昼食のBBQの準備、片づけなどが主な作業ですが、事前にある程度、役割分担もしています。昼食担当の人は、当日のBBQ用食材の買い出しや食器、調理道具の調達などもお願いしています」

Q 誰のためになるの?

A「里山での体験では、自然の大切さや可能性だけでなく、都会の生活も自然に支えられていることを実感します。それを子どもたちに伝えるために活動しています。子どもたちの発見や行動から大人が学ぶこともたくさんあります」

Q どうすれば参加できるの?

A「活動は定例会と里山開拓がそれぞれ月に1回。里山開拓の1回目は、見学という形で参加してもらいます。その後、続けられそうだと思うら、ぜひ参加してください。活動内容や申し込みの詳細はHP (<http://satoyamapioneers.web.fc2.com/>)でご確認を」

イモ子が今回参加したのは、東京里山開拓団のボランティア

手つかずの里山も開拓し、そこに児童養護施設の子どもたちを招いて自然体験をしてみよう! 代表 堀崎茂さん

どんなことをするのか??

活動場所は東京・高尾にある里山。まずは30分ほどの山登りから。

山頂付近には、開けた場所がさらに。手作りのハンモックやシーソー、ブランコも!

代表の堀崎さんと友人でモリ開いたというこの広場で児童養護施設の子どもたちと合流

みんな、食器作りスタート!

まずはまわりの木を使ったマイ食器作り

堀崎さんのレクチャーを受けたら...

空気感がきれい!

みんな素敵なお箸..

体験してみよう... イモ子日記

実際にどんなことをするのか、最初は不安もあったけど、活動内容は難しくなく、自然に囲まれた開放的な里山で、すぐに子どもたちとも打ち解けられてホッ。子どもたちがいるんな体験を通して、成長していく姿に元気をもらえました!

児童養護施設の子どもたちがニゴの体験を通して人や自然とのつながりを感じてくれたらと思っています

くは自然に生かされてそんなつながりを子どもたちに伝えられるといいな

ボランティアがそのサポートをするんですね

その後は広場でたっぷり遊んで下山

ランチはボランティアが準備してきた BBQ!

Spoon バターナイフ など

みんな素敵なお箸..

みんな素敵なお箸..